

『平成18年度施策実施状況調書(案)』

<p>施策名</p>	<p>(施策76)受給者等に対するサービスの向上</p>			<p>担当部局名</p>	<p>人事・恩給局 恩給企画課 恩給審査課 恩給業務課</p>		
<p>施策の概要</p>	<p>受給者の生活を支える恩給行政の推進に当たっては、受給者等に対するサービスの向上を図る必要がある。 受給者等に対するサービスの向上を図るためには、受給者等の恩給に対する理解の向上を図るとともに、受給者等に申請手続の簡素化による負担軽減に努めることが必要であることから、下記指標の状況により本施策の進行管理を行うものである。下記目標値及び目標年度については、過去の実績等を勘案したものである。</p>						
<p>主な指標の状況</p>	<p>主な指標等</p>		<p>目標値</p>	<p>目標年度</p>	<p>15年度</p>	<p>16年度</p>	<p>17年度</p>
<p>相談会等の開催回数・参加者数</p>		<p>—</p>	<p>—</p>	<p>7回・201人</p>	<p>7回・202人</p>	<p>7回・181人</p>	
<p>恩給相談件数</p>		<p>—</p>	<p>—</p>	<p>約29万件</p>	<p>約31万件</p>	<p>約31万件</p>	
<p>広報資料の配布部数</p>		<p>約121万部</p>	<p>17年度</p>	<p>約125万8千部</p>	<p>約126万2千部</p>	<p>約120万部</p>	
<p>住民基本台帳ネットワークの活用件数</p>		<p>延べ約484万件</p>	<p>17年度</p>	<p>約517万3千件</p>	<p>約504万5千件</p>	<p>約477万3千件</p>	
<p>恩給請求の処理期間</p>		<p>約1.4月 (前年度の処理期間)</p>	<p>17年度</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>約1.1月</p>	
<p>施策の主な実施手段の状況</p>	<p>予算執行を主とするもの</p>	<p>事業名 住民基本台帳ネットワークシステム利用 住民基本台帳ネットワークシステム利用にかかる経費を執行した。</p>	<p>15年度 5,714万円</p>	<p>16年度 5,554万円</p>	<p>17年度 5,021万円</p>		
<p>制度の企画・運用を主とするもの</p>		<p>項目 法律改正 平成19年度からの恩給の支払窓口拡大を内容とする改正法案の国会提出を行った。 政令改正 平成18年度からの恩給受給権調査(誕生日調査)を廃止する内容の恩給給与規則の改正を行った。平成17年12月14日公布。</p>					
<p>情報提供等を主とするもの、その他</p>		<p>項目 相談会開催 全国7か所で恩給相談会を開催した。 広報資料作成・配布 平成17年度から受給者の死亡に係る失権届の廃止等を内容とする広報を行った。</p>					
<p>(業務改善への取組状況) 局内における恩給等の審査処理期間の目標を設定し、平成18年度における恩給等の請求に対する審査業務の迅速化を図ることとした。</p>							
<p>本施策に関する課題等の状況</p>		<p>(課題等の状況) 住民基本台帳ネットワークシステムの利用に要する経費に係る予算を引き続き要求する。</p>	<p>予</p>	<p>制</p>	<p>事</p>		
<p></p>		<p>業務・システムの最適化を実施し、受給者等の負担軽減等行政サービスの向上を図るため、必要な制度改正の検討、システム開発の予算要求等を行う。</p>	<p>予</p>	<p>制</p>	<p>事</p>		
<p></p>		<p>更なる業務処理の迅速化・効率化を図るため、システム開発の予算要求等を行う。</p>	<p>予</p>	<p>制</p>	<p>事</p>		
<p>本施策に関する専門家の意見等</p>		<p>本施策の今後の課題等について、平成国際大学法学部小谷宏三教授に御意見を伺った(平成18年5月1日)。小谷教授の御指摘は以下のとおりであった。 恩給業務の業務・システム最適化計画を着実に実施し、受給者等の負担軽減等行政サービスの向上及び更なる業務処理の迅速化・効率化を図る必要がある。</p>					
<p>本施策に関する主な資料</p>		<p>恩給業務の業務・システム最適化計画 http://www.soumu.go.jp/jinji/saitekika.htm (平成17年6月29日公表)</p>					